

平成20年5月13日

各 位

会 社 名 スターツコーポレーション株式会社
 代表者の役職名 取締役社長 大槻 三雄
 (J A S D A Q ・ コ ー ド 8 8 5 0)
 問い合わせ先 経理部長 村松 久行
 T E L (0 3) 6 2 0 2 - 0 3 7 7

平成 20 年 3 月期連結業績予想及び個別業績予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 2 月 13 日に発表いたしました平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）の連結業績予想及び平成 19 年 11 月 15 日に発表いたしました平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）の個別業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期 連結業績予想の修正（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日） （単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想（A） （平成 20 年 2 月 13 日発表）	1 2 9 , 0 0 0	1 0 , 2 0 0	9 , 2 0 0	3 , 1 0 0
今回修正（B）	1 3 5 , 0 0 0	7 , 0 0 0	6 , 3 0 0	1 , 4 7 0
増減額（B - A）	6 , 0 0 0	3 , 2 0 0	2 , 9 0 0	1 , 6 3 0
増減率	4 . 7 %	3 1 . 4 %	3 1 . 5 %	5 2 . 5 %

（ご参考）前期実績

平成 19 年 3 月期	1 1 4 , 9 1 9	8 , 3 9 1	7 , 6 0 9	2 , 7 1 3
--------------	---------------	-----------	-----------	-----------

2. 修正の理由

（1）売上高の増加

平成 20 年 3 月期の売上高につきましては、分譲不動産事業におきましてスタートプロシード投資法人への賃貸住宅の譲渡が予想と比べまして約 2,600 百万円増加したほか、分譲マンション・戸建の販売におきましても前回予想と比べまして販売戸数が増加いたしました。

また、当社グループの財務内容の透明性をより高めるために、カード式の住宅用鍵等を製造販売しております「シャーロック株式会社」など新たに 5 社を連結子会社といたします。

これらの結果、売上高は前回予想と比べまして 6,000 百万円増加し 135,000 百万円となる見込みであります。

（2）営業利益及び経常利益の減少

平成 20 年 3 月期の営業利益につきましては、建設事業におきまして、建築資材の高騰等による建築コストの上昇により、売上総利益率は前回予想と比べますと 2.5%程度減少する見込みであります。

また、賃貸管理事業におきまして、管理受託営業強化のための人員増強等先行投資を戦略的に行ってまいりました結果、メンテナンス工事等の取扱高は着実に増加してまいりましたが、当連結会計期間中における投資額の回収までには至らず、仕掛工事として次期へ繰越しており

ます。売買仲介事業におきましても、昨今の不動産市況や金融情勢の急激な変化により法人向けの取扱高が当初予想より大幅に減少し、当連結会計期間第4四半期におきましても回復は見られませんでした。さらに時間貸駐車場「ナビパーク」事業におきましては、管理台数は着実に増加してまいりましたが、新規開設駐車場の安定稼働までには時間を要している状況であります。

これらの結果、営業利益は前回予想に比べまして3,200百万円減少し7,000百万円、経常利益は前回予想に比べまして2,900百万円減少し、6,300百万円となる見込みであります。

(3) 当期純利益の減少

平成20年3月期の当期純利益につきましては、上記のとおり営業利益及び経常利益の減少に加え、投資有価証券評価損、販売用不動産評価損等の特別損失の計上等により、当初予想に比べまして1,630百万円減少し、1,470百万円となる見込みであります。

3. 平成20年3月期 個別業績予想の修正 (平成19年4月1日～平成20年3月31日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A) (平成19年11月15日発表)	4,000	1,350	950	700
今回修正(B)	4,450	1,830	1,185	728
増減額(B-A)	450	480	235	28
増減率	10.1%	35.6%	24.7%	4.0%

(ご参考) 前期実績

平成19年3月期	3,045	849	871	672
----------	-------	-----	-----	-----

4. 修正の理由

平成20年3月期の売上高におきましては、前回予想と比べまして所有不動産における使用可能期間の変更等によって賃貸収入等が450百万円程度増加し、4,450百万円となる見込みであります。これに伴いまして、営業利益におきましても前回予想に比べまして480百万円増加し、1,830百万円となる見込みであります。

一方で当事業年度終盤の急激な円高によって、外貨建資産における為替差損が約270百万円発生いたしました。経常利益は前回予想より235百万円増加の1,185百万円となり、当期純利益におきましては、株式相場下落等に伴う投資有価証券評価損等の特別損失が発生いたしました。予想より28百万円増加の728百万円となる見込みであります。

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後の要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上